

COP10先住民族ニュース No.4

発行日 2010年10月22日

発行 COP10先住民族ニュース取材班

本会議4日目(10月21日)

朝:「生物多様性に関する先住民族国際フォーラム」(IIFB)の全体会合で、ABS 議定書の交渉グループおよび8条j項関連の交渉グループから、それぞれ交渉の進捗状況が報告されました。

午後1時15分から予定していたIIFBのサイドイベントが急遽夕方に延期。

午後1時半から1時間にわたって、日本政府とIIFBの会合が開催される。

午後3時からカナダ政府の対応を巡る緊急記者会見

午後6時15分からIIFB主催のサイドイベント「農業生物多様性と食の安全保障に関する先住民族の知恵」

IIFBと日本政府の会合

10月21日午後1時30分から約1時間、IIFBと日本政府の会合が開かれた。会合には、IIFBのメンバー11人(アフリカ、ロシア、太平洋、アジアの各地域から)が参加した。日本政府からは、外務省の岡浩COP10大使が対応した。

IIFBを代表して、ハワイのマリアさんが、「これまで日本政府との会合を何度も求めてきたが、今回初めて実現できたので感謝したい。これからも継続したい。また、先住民族のCOP10参加に対する財政支援を日本政府に求めたが、拒否されたため、COP9に比べて今回参加した先住民族の数が少ない。議長国として、先住民族の参加を保証してほしい」と発言。続いて、二風谷から来た貝沢耕一さんが「COP10で驚いたのは、日本の先住民族であるアイヌについて何の説明もないことだ。先住民族として認めたのなら、きちんと私たちの権利を認めてほしい。沖縄の琉球民族も同様に先住民族だ」と述べる。続いて、マレーシア・サバ州で実施される日本のODAによる森林開発プロジェクトで先住民族の参加・同意を得ること、パングラデシュ政府にチャクマ民族など先住民族の権利を認めるよう日本政府が働きかけること、インドにおける軍事化(毛派の政治集団「ナクサライト」弾圧のグリーンハンド作戦によってそこに住む先住民族が犠牲になっている)を中止するよう求めること、コンゴにおける日本企業の投資問題などが指摘されました。

日本政府側としては、どの問題についても「よく知らなかったの、これから勉強します」という答えしかなかった。

先住民族との会合に応じたことは、これまでの無視と比べて半歩前進だが、先住民族が求める「全面的かつ効果的な参加」という権利をどこまで理解したのだろうかという疑問は残る。この会合には、当初、環境省と農林水産省、経済産業省からも参加する予定だったが、結局、外務省しか参加しなかったの、COP10期間中にもう一度会合を開くことを求めて、終了した。

COP10先住民族ニュース取材班 (文責 越田清和)
<関連記事>

Ainu have biodiversity bone to pick with host Japan
Concept of two separate ethnic groups in country
'frightening concept' for government
(Japan Times 10/22)

IIFB サイト:Japan Government met with Indigenous Peoples for consultation round at COP10

<http://iifb.indigenousportal.com/2010/10/21/japan-government-met-with-indigenous-peoples-for-consultation-round-at-cop10/>

カナダ政府への対応

今朝(10月21日木曜)のIIFBの全体会合で、ABS 議定書の交渉グループの進捗状況が報告されました。

そのなかで、ひとつ興味深いことがありました。

COP10の事前交渉でいったん合意されたABS 議定書の草稿には長い前文がついていますが、その多くの段落にはカギカッコがついていますが、その多くの段落にはカギカッコがついていない部分であることを示します。

なかでも先住民族に大きく関係する前文の段落として、国連の先住民族権利宣言に言及した段落と、ABS 議定書を先住民族の権利を損なうような解釈で運用してはならないとする段落があります。

昨夜(10月20日水曜)の深夜にまで及んだABS 議定書のICG(非公式協議グループ... 実質的なことの多くはこの秘密会合で決まる)では、カナダが上記2つの段落を前文から削除するべきだとの意見を述べたそうですが、他の加盟国は残すべきだとの意見で一致していたとのことです。(HK)

この事態に対して、IIFBにも参加するカナダのイヌー民族は20日午後に記者会見を開き、ABS 議定書の前文において、先住民族の権利に関する国連宣言への言及を妨げようとするカナダ政府の対応をあらためて非難。(AY)

サイドイベント「農業生物多様性と

食の安全保障に関する先住民族の知恵」

:カルメン・ラミレス(コロンビア)

コロンビアで先住民族の農業の生物多様性を脅かしているのは、メガ・プロジェクト。その代表は鉱山開発、もうひとつの大きな問題は、軍事化の進行である。

:ブラサート・トラカンスハコン(タイ)

主にタイの山岳民族による移動耕作についての発表。アジアの多くの国では「遅れた農業形態」と言われているが、先住民族の文化的実践と密接に結びついていると同時に、種の保全に貢献している。農業の生物多様性と食の安全保障につながる実践である。

こうした実践を維持するためには、先住民族の土地権や共同所有形態が認められることが重要!

文責:木村真希子/越田清和(全文はブログに)

COP10先住民族ニュース取材班

ブログ記事を整理したものです。

COP10開催期間中の連絡先:第二ビル 234 ルーム

詳細は <http://indigenousnet.blog75.fc2.com/>